

インターネットファクシミリ相互接続試験実施要領

H A T S 推進会議
(高度通信システム相互接続推進会議)
ファクシミリ相互接続試験実施連絡会

インターネットファクシミリ相互接続試験実施要領

改定履歴

版	改定年月日	改定内容	担当
0.0	2001年9月5日	TTCにてTTC-G-026-V2として制定	笹野
1.0	2007年3月31日	TTCより譲渡	笹野
1.1	2009年7月7日	Page. 2、5 図1をITU-T T. 24 No. 1チャートに変更。 Page. 10 図1のサンプルを削除。	福田

本書は、TTCがガイドラインとして制定・管理していたものをHATS推進会議(以下、HATSという。)に譲渡されたものであり、HATSが著作権を保有しています。
内容の一部または全部をHATSの許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁じます。

i-18-3
2000年10月12日
2001年9月5日改定

(TTC相互接続試験実施ガイドライン)

インターネットファクシミリ
相互接続試験実施要領

(インターネットファクシミリ・
相互接続試験実施ガイドライン)

(2001年)

HATS ファクシミリ相互接続試験実施連絡会

(社団法人電信電話技術委員会)
(THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE)

TTC相互接続試験実施ガイドライン改版履歴
(インターネットファクシミリ相互接続試験実施ガイドライン)

版数	制定日	改版内容
第1版	2000年10月12日	制定
第2版	2001年9月5日	フルモード試験項目追加

目次

第1章	試験の目的	1
第2章	試験の対象	1
2.1	試験の対象となる端末・システム	1
2.2	試験に利用する網	1
第3章	本資料が試験対象とする標準の範囲	1
第4章	試験の前提条件	1
4.1	試験対象以外に準拠すべき標準の範囲	1
4.2	事前確認事項	1
4.3	試験の組み合わせ	1
第5章	試験項目	2
5.1	必須項目試験方法	2
5.2	オプション項目試験方法	2
第6章	試験の手順	3
第7章	結果の報告	4
表1	試験項目	5
表2	試験結果通知票	7
表3	事前調査票	8

第1章 試験の目的

インターネットファクシミリについては、国際電気通信連合（ITU）において標準化が進められ、関連の勧告が承認されている。

シンプルモードのインターネットファクシミリ機能については1999年に、フルモードのインターネットファクシミリ機能については2000年にそれぞれTTC標準として制定された。

この機能をいち早くユーザに提供するために、相異なるメーカー間での相互接続性を確認し、ユーザの利便を図ることを目的とする。

本実施要領は上記状況の中で、各メーカーの製造する製品間での必要最低限の相互接続性を確保するために実施すべき相互接続試験の内容・手順等について規定するものである。

第2章 試験の対象

2.1 試験の対象となる端末・システム

試験の対象となる端末は、インターネットに直接もしくは間接的に接続し、使用されるインターネットファクシミリである。

2.2 試験に利用する網

試験ではインターネットを使用する。

第3章 本資料が試験対象とする標準の範囲

本相互接続試験の勧告・標準の範囲は以下とする。

- ・ TTC標準 J T - T 3 7 蓄積交換型のインターネットファクシミリデータ伝送手順

第4章 試験の前提条件

4.1 試験対象以外に準拠すべき標準の範囲

試験として、試験対象以外に準拠すべき標準は特に定めない。

4.2 事前確認事項

相互接続試験を円滑に実施可能とするため、相互接続試験の参加希望者は、事前に十分な試験を完了しているものとする。

事前試験としては、相互接続試験を行う機器の使用環境を整えたうえで、

- ・ 関連する勧告、標準に基づくプロトコルの検証試験
- ・ システム全体の機能確認試験
- ・ 相互接続試験を行うのに十分なシステムとしての信頼性の確認試験

等が完全に実施されるものとする。

事前の十分な確認試験が実施されたか否かについては、実施者自身の責任に基づく判定によるものとする。

4.3 試験の組み合わせ

試験は3社以上の総当たりで行うこととする。

同一種別での2回目以降の試験は実施済みの2社以上を含むものとする。

第5章 試験項目

試験は必須項目とオプション項目で構成される。

試験では、必須項目は必ず動作を確認しなければならないが、オプション項目は必要とする項目のみ実施することが可能である。

原稿はITU-T T.24 No.1チャート（及びその拡大）とし、送信会社名、試験番号を明記する。

手順はTTC標準JT-T37シンプルモードまたはフルモード、画像フォーマットはProfile-S/F/Jとする（但し、いずれの画像も、Little Endian, LSB firstとし、RFC2301の4.4.6にあるガイドラインを満たすこと）。

試験結果は表2の試験結果通知票に記入する。

5.1 必須項目試験方法（詳細は表1）（解像度の単位はpels/25.4mm相当）

1) 双方から以下の3通信を行う。

＜試験グループA：シンプルモード必須項目試験＞

- ・試験番号A-1：A4（解像度は200×200）1ページの送受信
- ・試験番号A-2：A4（解像度は200×200）2ページの送受信
- ・試験番号A-3：A4（解像度は200×100）1ページの送受信

2) フルモードの試験の場合、上記に加えて双方から以下の1通信を行う。

＜試験グループG：フルモード必須項目試験＞

- ・試験番号G-1：受信確認 A4（解像度は200×200）1ページの送受信

3) 合否の判断

3-1) シンプルモード

試験グループAの全ての項目を実施する。

判定は、受信側で正常に画像を再現できたことでOKとする。

3-2) フルモード

試験グループAと試験グループGの全ての項目を実施する。ただし、試験グループAの試験が完了している会社は、試験グループAの試験を省略することができる。

判定は、試験グループAでは受信側で正常に画像を再現できたことでOKとする。

試験グループGでは送信側で受信側からの受信確認を受信し、受信側の処理結果が把握できたことでOKとする。

5.2 オプション項目試験方法（詳細は表1）

1) 会社間でのオプションの試験項目数はA-4を含んで7以下とする。

＜試験グループA：シンプルモードでのエラー通知機能＞

- ・試験番号A-4：エラー通知

エラー通知については、本実施要領の表紙1頁のWordファイル等を送信して受信側の動作を確認する。

送信はPCなどを代用してもよい。

＜試験グループB：シンプルモード、A4判での異なる解像度試験＞

- ・試験番号B-1：A4 1ページ（解像度は200×400）の送受信
- ・試験番号B-2：A4 1ページ（解像度は400×400）の送受信
- ・試験番号B-3：A4 1ページ（解像度は300×300）の送受信

＜試験グループC：シンプルモード、B4判での異なる解像度試験＞

- ・試験番号C-1：B4 1ページ（解像度は200×100）の送受信
- ・試験番号C-2：B4 1ページ（解像度は200×200）の送受信

- ・試験番号C-3 : B4 1ページ (解像度は200×400) の送受信
- ・試験番号C-4 : B4 1ページ (解像度は400×400) の送受信

＜試験グループD : シンプルモード、A3判での異なる解像度試験＞

- ・試験番号D-1 : A3 1ページ (解像度は200×100) の送受信
- ・試験番号D-2 : A3 1ページ (解像度は200×200) の送受信
- ・試験番号D-3 : A3 1ページ (解像度は200×400) の送受信
- ・試験番号D-4 : A3 1ページ (解像度は400×400) の送受信

＜試験グループE : シンプルモード、A4判での異なる符号化方式試験＞

- ・試験番号E-1 : A4 1ページ (符号化方式はMR) の送受信
- ・試験番号E-2 : A4 1ページ (符号化方式はMMR) の送受信
- ・試験番号E-3 : A4 1ページ (符号化方式はJBIG) の送受信

＜試験グループF : シンプルモードでのその他の通信試験＞

- ・試験番号F-1 : A4 1ページ (副走査方向の長さが2倍) の送受信
- ・試験番号F-2 : 1頁目がA4 (解像度は200×200)、2頁目がA4 (解像度は200×100) の送受信
- ・試験番号F-3 : A3 1ページ (解像度は400×400で符号化方式がMMR) の送受信
- ・試験番号F-4 : A4 2ページを1ページずつ2つのファイルで構成された通信の送受信
- ・試験番号F-5 : A4 1ページ (解像度は400×400で符号化方式がMMR) の送受信

＜試験グループH : フルモード能力交換試験＞

- ・試験番号H-1 : A4 1ページ (解像度は200×200) の送受信で、受信側は送信側に能力の通知を行う。なお、試験前にあらかじめ受信側の能力を送信側に公開しておく。

2) 合否の判断

合否は希望した項目のみについて判定する。

判定は、受信側で正常に画像を再現できたことでOKとする。(受信能力が無い場合は「一」とする。)

試験番号A-4については、再現不可であることが受信側もしくは送信側で把握できた場合はOKとする。

試験番号H-1については、送信側で受信側の能力が把握できたことでOKとする(事前に公開された受信側の能力と送信側が把握した能力と違いがないこと)。

第6章 試験の手順

試験は下記の手順に従い実施することを原則とする。

1. 取りまとめ会社は試験参加社に対して表3の様式で事前調査を行い、結果を試験参加社の担当者に配布する。
送信を希望するアドレスは1社につき2つまで(FAXと予備のPCなど)とする。
2. 取りまとめ会社から試験実施時間割りを試験参加各社の正担当者に配布する。
3. 試験参加会社は所定の期限(1)までに送信先の会社に対して表2の様式で送信するオプション項目などの通知を行う。
4. 試験参加会社は割り当てられた時間になったら、事前に通知した送信順に従い、送信を行う。
このとき、メールサーバレベルで1分以上の間隔を空けながら送信することが望ましい。
5. 受信会社は所定の期限(2)内に結果を予め受信した試験結果通知票に記入して送信会社の正担当者に返送する。
所定時間内に全ての結果を記入できない場合は、その旨を特記事項欄に記載し、送信するとともに所定の期限(3)までに最終結果を返送する。
6. 送信会社は所定の期限(4)までに取りまとめ会社に全ての試験結果通知票を送信する。

- ・所定の期限（１）：前日１７：００
- ・所定の期限（２）：AM試験は当日１５：００まで、PM試験は翌日１０：００まで
- ・所定の期限（３）：試験実施の翌日１７：００まで
- ・所定の期限（４）：試験実施の翌々日１２：００まで

第７章 結果の報告

試験結果は取りまとめ会社がまとめてファクシミリ相互接続試験実施連絡会に提出する。

以上

表 1：試験項目

《シンプルモード必須試験項目》

《シンプルモードオプション試験項目》

試験番号	A-1	A-2	A-3	A-4
アイテム	A4・1枚	2枚	200x100	エラー通知*1
原稿サイズ	A4			本試験では MS-WORD等の ファイルを送信 するものとする。
解像度	200x200	200x200	200x100	
符号化方式	MH			
副走査長	定型			
連送	1枚	2枚	1枚	
ファイル数	1			
エラー通知*	-			

※注

A-4を除くすべての試験項目において
画像フォーマットは Profile-S/F/J*2
チャートは ITU-T T.24 No.1 チャート
(もしくはその拡大版)
とする。

*1 エラー通知：受信結果通知（エラー通知）

*2 但し、いずれの画像も、Little Endian, LSB first とし、RFC2301 の 4.4.6 にあるガイドラインを満たすこと。

《シンプルモードオプション試験項目》

試験番号	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	C-4
アイテム	200x400	400x400	300x300	B4-1	B4-2	B4-3	B4-4
原稿サイズ	A4			B4			
解像度	200x400	400x400	300x300	200x100	200x200	200x400	400x400
符号化方式	MH			MH			
副走査長	定型			定型			
連送	1枚			1枚			
ファイル数	1			1			
エラー通知*	-			-			

試験番号	D-1	D-2	D-3	D-4	E-1	E-2	E-3
アイテム	A3-1	A3-2	A3-3	A3-4	MR	MMR	JBIG
原稿サイズ	A3				A4		
解像度	200x100	200x200	200x400	400x400	200x200		
符号化方式	MH				MR	MMR	JBIG
副走査長	定型				定型		
連送	1枚				1枚		
ファイル数	1				1		
エラー通知*	-				-		

試験番号	F-1	F-2	F-3	F-4	F-5
アイテム	長尺	モード変更	MMR-2	複数ファイル	MMR-3
原稿サイズ	A4	A4	A3	A4	A4
解像度	200x200	200x100 200x200	400x400	200x200	400x400
符号化方式	MH	MH	MMR	MH	MMR
副走査長	長尺	定型	定型	定型	定型
連送	1枚	モード変更 2枚	1枚	1枚*2	1枚
ファイル数	1	1	1	2	1
エラー通知*	-				

《フルモード必須試験項目》

試験番号	G-1
アイテム	受信確認
原稿サイズ	A4
解像度	200x200
符号化方式	MH
副走査長	定型
連送	1枚
ファイル数	1
受信確認	DSNまたはMDN

《フルモードオプション試験項目》

試験番号	H-1
アイテム	能力交換
原稿サイズ	A4
解像度	200x200
符号化方式	MH
副走査長	定型
連送	1枚
ファイル数	1
能力交換	受信確認メッセージに能力を記述

表2：試験結果通知票

【返送先】* E-mail _____ Fax _____

【試験日時】 _____ 月 _____ 日 _____ : _____ ~ _____ : _____

【送信】* 会社名 _____ 試験者 _____

(試験時連絡先電話番号* _____)

(FAX 端末アドレス* _____)

(サポート PC アドレス* _____)

【受信】 会社名 _____ 試験者 _____

(試験時連絡先電話番号** _____)

(FAX 端末アドレス** _____)

(サポート PC アドレス** _____)

【試験結果】

《必須試験項目》

送信順	試験番号	試験アイテム	結果
1	A-1	1 枚	
2	A-2	2 枚	
3	A-3	200×100	
4	G-1	受信確認	*

《オプション試験項目》

実施する* 実施しない*

送信順	試験番号*	試験アイテム*	結果
1	A-4	エラー通知	<input type="checkbox"/> 受信機でエラーを表示 <input type="checkbox"/> エラーメールを返送 (返送先アドレス _____) <input type="checkbox"/> Text <input type="checkbox"/> MDN <input type="checkbox"/> DSN <input type="checkbox"/> その他 (_____)
2			
3			
4			
5			
6			
7			

【特記事項】

* : 送信側が記入 (オプション試験項目で H-1 を選択した場合、結果は送信側が記入)

** : 受信側が記入

表3：事前調査票

試験に参加される会社は試験に必要な事項を次ページの用紙に記入のうえ、
月 日までに下記宛先まで返送願います。

記

(宛先)

(Fax)

(E-mail)

【会社名】 _____

【担当者】 正 所属 _____ 電話 _____
 氏名 _____ FAX _____
 E-mail _____

副 所属 _____ 電話 _____
 氏名 _____ FAX _____
 E-mail _____

【試験用アドレス】

インターネット FAX 端末 _____
 サポート PC _____

【試験時連絡先】

電話 _____
 E-mail _____
 Fax _____

【試験モード】

シンプルモード フルモード（受信確認要求方法： DSN MDN）

【オプション試験送信項目】

試験項目数（最大6） _____
 試験番号 ① _____ ④ _____
 ② _____ ⑤ _____
 ③ _____ ⑥ _____

【エラー通知の方法】（該当する項目をチェックしてください。）

- 受信機でエラーを表示 （ Display に表示 レポート出力）
 エラーメールを返送(Text) （ From へ Reply-to へ）
 エラーメールを返送(MDN) （ From へ Reply-to へ）
 エラーメールを返送(DSN) （ From へ Reply-to へ）
 その他（具体的な方法を記入してください。）

【試験装置の能力の通知内容】（試験番号 H-1 を実施する場合）

記録紙サイズ： _____
 解像度： _____
 符号化方式： _____
 その他（ビット精度、色空間、ガムユート範囲など）： _____

【その他の特記事項】